

実技試験について

受付

- 試験当日の**受付は試験開始の30分前**から行います。受験票を受付に提出してください。(受付後、受験票はお返します)
- **遅刻については一切認めませんので注意してください。**

試験前確認

脱毛器、備品類の準備・確認

- 受付で渡されたバッジと同じ記号のベッドで試験の準備をしてください。脱毛器を持ち込む方は、機器の設置等準備をしてください。会場貸出脱毛器を使用する方も、脱毛器の確認をしてください。
- 会場に用意してあるものを確認してください。
アルコール綿、オスバン綿、セッシ立て、セッシ 1 本、使い捨て滅菌トレイ(小さな滅菌バッグに入っています)、ハサミ(滅菌バッグ開封時に使用)、プローブ廃棄容器、ペーパーシート、ビニール袋(ゴミ袋)
- ベッドやワゴンは施術しやすいように多少動かしても構いません。
- 5分前には会場スタッフが声を掛けますのでモデルと共にベッド脇に待機してください。フェイスシールド(グラスシールド)等を使用する場合は、装着してください。

注意事項

- 試験会場へは貴重品・受験票を忘れずにお持ちください。
- 受験票は試験官が見やすい所に置いてください。試験後、受験票はお持ち帰りください。
- **携帯電話の電源は必ずOFFにしてください。(受験者・モデル共)**
- 受験者、モデルの貴金属は全て外してください。

【実技試験の流れ】

以下①からは試験開始後、試験官の指示に従って行ってください。

① ペーパーシートの準備 モデルの準備

- ペーパーシートを敷き、モデルをベッドに誘導してください。

② 身だしなみ採点

- 会社、サロンの清潔なユニフォーム、白衣等で受験してください。作業に支障をきたすような、明らかにエステティシャンとしてふさわしくないと試験官が判断したときには減点の対象となります。
- 靴はフットペダルを踏み易い、ナースシューズのようなものを履いてください。かかとの高いものは減点となります。裸足及びスリッパでの受験は不可です。
- 爪は清潔であること。長さは手掌より見て指より上に伸びていると減点となります。マニキュアも減点です。
- 髪は清潔にし、肩より下に伸びている場合は必ず後ろで結んでください。前髪は目の位置より下までたれないようにしてください。髪の色は採点の対象になりません。

③ フットペダル、 ライト等の配置

フットペダル等をセットし、ライトの位置を決めてください。

④ 手洗い ⑤ 手指消毒

会場には薬用ミューズ、ペーパータオルが用意されています。手洗いは、手指だけでなく肘まで洗ってください。又、手洗い後の蛇口、ドアノブ等の開け閉めはペーパータオルを使用してください。握り導子を使う人は、ここで濡らしてください。

⑥ 機械、器具の消毒

脱毛器、ハサミ、各種器具、消毒容器の蓋、ライトの笠、脱毛器やライトのスイッチ等、手の触れるところはすべて消毒してください。眼鏡等も消毒します。

実技試験の流れ

⑦ 握り導子の設置、
グローブ、眼鏡装着

眼鏡等を装着してください。グローブは装着後、消毒してください。

滅菌バッグ開封
⑧ 滅菌トレイにツイーザーを
置く

■滅菌トレイには、滅菌済みのツイーザー及びプローブのみを置いてください。
■受験者が各自で用意するツイーザーは必ず滅菌済みのものとし、正しい滅菌の取り扱いをしていないと試験官が判断した場合、減点の対象になります。
滅菌については、同封の「美容電気脱毛における滅菌・消毒について」を必ずお読みください。

⑨ トリートメントエリアの消毒

手指、施術部位はできるだけ広い範囲で消毒してください。
未消毒部位に手指が触れた場合、減点の対象となります。

⑩ プローブの装着

直接手指で装着した場合は減点になります。滅菌済みツイーザーを用いるか、プローブを包装してあるパックを利用し装着してください。

⑪ 手指消毒

コットンで再度手指消毒をしてください。

⑫ 電流設定、施術開始

試験では電流設定をるところから採点しますので、電流設定を始める際は、高周波利用での秒数設定から施術を行ってください。

⑬ 実技（約20分）

■電流設定

ブレンドの場合、明らかに直流、高周波の電流設定のバランスが間違っていれば減点になります。又、ブレンド法、高周波法共に処理した毛が適正に抜けない場合や、適正に抜けていても処理中に皮膚表面が不必要にふくらんだり白くなったりあるいは水疱ができるような場合は、電流設定が釣り合っていないということになります。

■挿入の基本

一本一本の毛とプローブが沿うようにスムーズに挿入されていればOKです。明らかに方向、角度が間違っている場合はもちろん、無理に挿入している、刺しているといった感じがあれば減点対象になります。又、電流設定が適正であるにもかかわらず、抜け方が悪い場合も、挿入の基本に問題ありと見なすことがあります。深度は、ブレンド法の場合は処理しているグループの毛の成長期後期に合わせてください。高周波法(マニュアル・フラッシュ)の場合は、通電時間、強度、プローブサイズ、毛のステージに合わせて深度を変えていただいで結構です。

■挿入リズム

本数を競うものではありませんので、落ち着いて一本一本確実に処理して頂いて結構ですが、あまりにも毛から毛への移動が手間どる、あまりにも処理した毛が少なすぎる場合はリズムが悪いということになります。

■処理された毛

抜いた毛は、オスバン又はアルコールで十分湿らせたコットン上に必ず並べてください。実技試験ですので、できるだけ成長期の毛を選んで処理してください。脱毛ペースを上げるためにモデルの施術部位上にコットンを置いていただいても結構です。処理された毛の状態を試験官がチェックし、挿入リズムの参考にしますので処理した毛をバラバラにしないでください。並べておいたコットンを落としてしまったり、並べていた毛が手についてしまった時は、すぐに試験官に報告してください。

■施術中の衛生

施術中に触れる可能性のある所はあらかじめ全て消毒しておいてください。やむを得なく施術中に髪の毛や皮膚、めがね等に触れた場合はオスバンもしくはエタノールで必ず手指を消毒してください。落とした場合に備えてツイーザー、プローブ等は予備のものを用意してください。

実技試験について

<p>⑭ 試験終了 毛と皮膚の採点</p>	<p>処理した範囲の皮膚の状態及び毛の抜け具合を採点します。</p>
<p>⑮ 施術箇所の消毒</p>	<p>施術部位の消毒は、会場設置のオスバン、もしくはエタノールで行なってください。ただしモデルの体質によりご自分で用意してもかまいません。</p>
<p>⑯ グループ面談 (口頭試問)</p>	<p>全体で10～15分程度のグループ面談をおこないます。モデルの方は退出し、受験者の方は試験官の指示に従ってください。 美容電気脱毛に関する知識や技術についての質問に答えて頂きます。</p>
<p>⑰ 片づけ</p>	<p>脱毛器を持込みした方は備品等忘れ物の無いようにしてください。消耗品等をごみ袋に捨て、ベッド周囲を確認してから退出してください。</p>

【その他注意事項】

<p>① 危険行為について</p>	<p>下記の行為は危険行為とみなされ、減点の対象となりますので注意してください。 ■プローブをプローブ廃棄容器以外の場所に捨てる ■素足での施術 又、接客業として不適格とみなされた場合や試験官の指示に従わない場合も同様に減点となります。</p>
<p>② 試験中に物を落とした時</p>	<p>■ツイーザーを落とした場合 拾わずに予備のもので対応してください。予備も落とした場合は会場で購入してください。 ■プローブを落とした場合 試験官に申し出てください。試験官が処分します。 ■これら以外のものを落とした場合 拾わずにそのまま試験を続行してください。 ※いずれの場合も試験官に告げてから続行してください。</p>
<p>③ 会場設置のセッシの取り扱いについて</p>	<p>アルコール綿及びオスバン綿は会場設置の万能ピンに用意されていますが、使用する際万能ピンの蓋を備え付けのセッシで開ける行為は減点対象となります。 アフターケアを行う際は、オスバン綿をセッシで取り、手もしくは持参のセッシで行ってください。</p>
<p>④ 試験中のマナー</p>	<p>試験官は受験者の技術だけでなく、エステティシャンとしてのマナーも見ています。試験中は厳粛な気持ちで試験に臨みましょう。又、試験中、受験者とモデルとの間でアドバイス等不正行為とみなされる会話が確認された場合は不合格となりますので注意してください。 会場によっては控え室と試験会場が隣接していますので、試験会場以外の場所でも私語は慎みましょう。</p>
<p>⑤ 脱毛器とプローブについて</p>	<p>貸出用脱毛器を使用する場合、予めその脱毛器とご自分が当日使用するプローブが対応するかどうかご確認ください。(会場のピンケルは通常ワンピースのプローブが対応になります)対応しないプローブを使用される場合は、プローブホルダーを持参することをお勧めします。</p>
<p>⑥ 脱毛モデルについて</p>	<p>■脱毛モデルには、採点しやすい成長期の毛の多い人、毛量が十分ある人を選ぶようにしてください。脱毛する部位は問いません。モデルは男女どちらでも結構です。又、モデルは受験者一人に対して一人必要です。 ■モデルの服装は特に問いませんが、受験者が施術しやすいように、脱毛部位によっては着替えやガウン等を用意するとよいでしょう。 ■相モデル受験を申し込まれた場合、予め事務局で受験時間の調整をしています。事前に相手の受験者と受験票の受験時間を確認してください。</p>

美容電気脱毛における滅菌・消毒について

一般社団法人日本美容電気脱毛協会

実技試験での注意点

※ツイザーは滅菌済のものを持参してください

ツイザーを試験会場に持参する際、ビニール袋・紙や布に包んで持参するなど、滅菌器具の正しい取り扱いをしていない場合は、減点の対象となります。ツイザーを入れて一緒に滅菌できる金属製の容器や滅菌バックに入れる等、**滅菌状態を保てる方法**で持参してください。

ツイザーを忘れた（滅菌をしていない）方は当日ツイザーを購入していただきますが、数に限りがありますのでご注意ください。

減点の対象とならないように、下記の滅菌・消毒についてよく読んでから試験に臨んでください。

1. 滅菌と消毒の意味と方法

滅菌とは、対象物に存在するすべての微生物を殺滅または除去すること。

方法：オートクレーブ（高圧蒸気滅菌）、ドライヒート（乾熱滅菌）、ガス滅菌など。

消毒とは、対象物に存在する病原微生物を殺滅するか除去して感染が起こらないようにすること。

方法：消毒剤、煮沸消毒、紫外線消毒など。

2. 美容電気脱毛における滅菌・消毒の必要性

顧客から顧客、技術者から顧客、顧客から技術者へと病気の感染を防ぐため、そして顧客が脱毛施術による細菌感染を起こすことのないよう、すべての顧客に対して、下記の感染予防手段を確実に実行する必要があります。

1) 皮膚の消毒

皮膚には常在微生物など多くの微生物が付着しています。特に、脱毛後の毛包は雑菌が侵入しやすいなど、脱毛後の皮膚は細菌感染を起こしやすくなっています。脱毛施術による細菌感染を防止するため、施術前後には必ず**施術部位を消毒**しましょう。また技術者の手指、腕など**施術部位に触れる可能性のあるところも消毒**を行う必要があります。

消毒剤には、消毒用エタノールやオスバン（塩化ベンザルコニウム水溶液）がよく使われています。施術前の消毒には、速乾性のある消毒用エタノール、施術後にはしみることの少ないオスバンが勧められますが、それぞれ人によってはかぶれることもありますので、その場合はどちらか一方、あるいは他の消毒剤を使用します。

2) 機器、備品類の消毒

せっかく技術者が手を洗い手指の消毒を行っても、施術中に触れるところを消毒しておかなければ意味がありません。例えば、脱毛器のスイッチ、ダイヤル類、プローブホルダー、プローブホルダースタンド、ライトのスイッチ・かさの部分、消毒綿の容器のフタなど、触る可能性のあるところはすべて消毒しましょう。施術中に、消毒していない部分に触れた場合は、もう一度手指の消毒を行わなければなりません。

3) 器具の滅菌

細菌感染防止のため、毛包に挿入するプローブは滅菌したものを使わなければなりません。滅菌の確実性、利便性の意味からも、滅菌済の使い捨てプローブを使用します。施術中に顧客の皮膚にふれる可能性のあるツイーザーも滅菌したものを使わなければなりません。ツイーザーは先端が鋭利なため、誤って顧客の皮膚を傷つけてしまう可能性がありますので、ツイーザーも必ず滅菌したものを使用します。

ツイーザーの滅菌にはオートクレーブが簡便で推奨されます。ただし、滅菌する前にツイーザーに付着した有機物や、その他残留物質をよく洗浄して取り除くことを忘れないようにしてください。

3. 滅菌した器具の取り扱い

滅菌したものは、生きた微生物が全く存在しない状態なので、滅菌したもの以外が触れた場合、その瞬間から滅菌状態ではなくなります。消毒したものであっても、滅菌ではないので同じことです。例えば、滅菌したプローブやツイーザーの先端部を消毒した手で触れる、ワゴンやシート・ティッシュペーパーの上にツイーザーを直接置く、滅菌トレイに消毒綿を乗せる等をする、滅菌した意味がなくなってしまいます。滅菌済のトレイの中に置いてもいいものは滅菌済のプローブとツイーザーのみです。

滅菌済のトレイを滅菌バッグから出すときも、トレイの内側には手を触れないように注意してください。トレイの外側は、ワゴンの上に置いた時点で滅菌ではなくなりますので、出す時に手で触れても構いません。

滅菌したものを取り扱うときには、どこからどこまでが滅菌されているのか、どこから触っているのか、清潔、不潔の概念を正しく持って注意して扱きましょう。

以上

挿入深度測定方法について

正しい深度を測定する為には、美容電気脱毛をして抵抗なく抜き取った成長期後期の毛を使います。美容電気脱毛をしていない毛包から抜いた毛では、正確な深度が得られません。以下（マイケル・ボノ著「The Blend Method」日本語訳版 日本スキン・エステティック協会発行より抜粋）を参照してください。

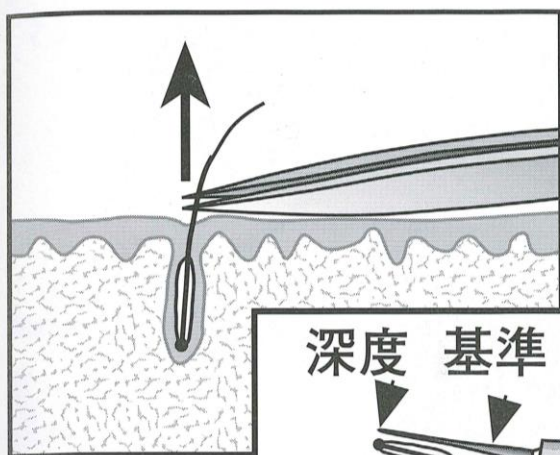
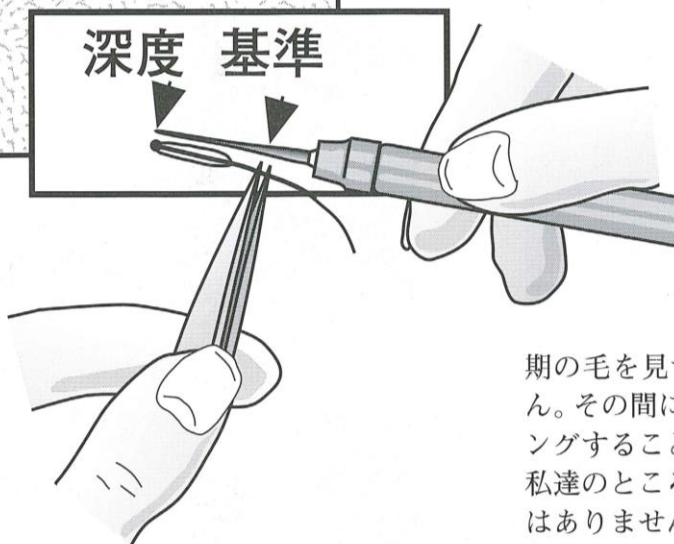


図 12

成長期の毛根と毛幹が「深度基準」です。電気脱毛した毛をプローブの隣に置き、挿入の正確な深さを確立します。



深度基準にするために毛を Tweezer で抜いてはいけません。成長期の毛をゲージとして使用することを思い出してください。「正しい」成長

期の毛を見つけ出すのに数分かかるかもしれません。その間に多数の休止期や退行期の毛をツイーミングすることになります。顧客は永久脱毛のために私達のところに来るのです。ツイーミングが目的ではありません。ツイーミングは鞘をヒダ状にもしますから、正確に電気脱毛した成長期の毛よりいくぶん短い毛根を示します（36 ページ）。



深度の基準を確立する

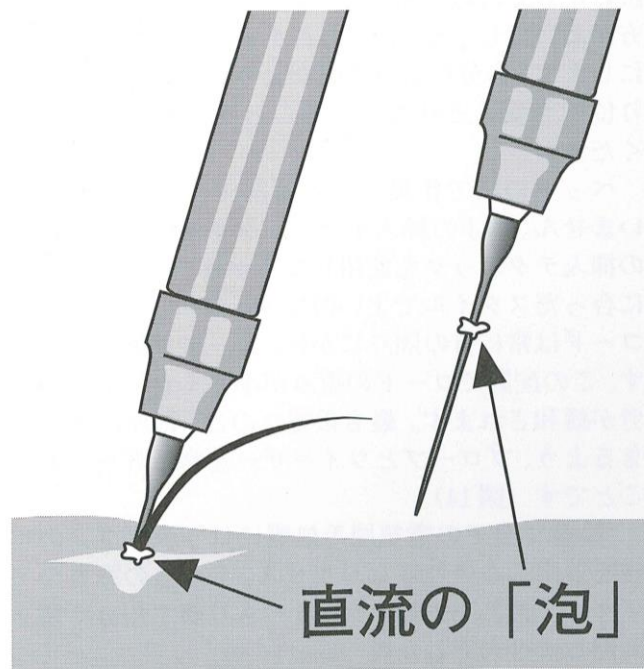
トリートメントを始めて数分たつと成長期の毛を何本か電気脱毛しているでしょう。同じように見える成長期の毛に挿入し、十分に毛包を破壊させます。毛包からプローブを取り除きます。Tweezer を皮膚のレベルに置き、毛をつまんで、抜き取ります。電気脱毛した毛根と毛幹が深度基準です（図 12）。

電気脱毛した毛をプローブの隣に置き、プローブの正確な深さを記憶します。このトリートメントエリアの同等のサイズの毛全てについて、この深さに挿入します。毛根と毛幹の両方を確実に判断に含めてください。正確な深さゲージは毛球から Tweezer が毛をつまんだところまで伸びています。（毛幹を削除するのはありがちな誤りです。）

トリートメントを続けていくと、直流の「泡」が少量、ちょうど毛孔部でプローブに付着します（図 13）。この残留物を正確な挿入の深さの指標として使用します。何回かするとあまりに大量の泡が蓄積して指標が不正確になります。残留物が多すぎたら Tweezer でつまみ落とします。

図 13

直流の「泡」の残留物がプローブに付着し、これを深さの指標として用います。



以下の行為は、実技試験において不合格や減点の対象となります。

一人でも多くの方が合格されるよう参考にしてください。

	不合格や減点の事例	理由・対処法
1	滅菌トレイの中をさわる。	トレイの内側をさわっては、滅菌した意味が無くなる。(さわった瞬間から滅菌状態ではなくなる)
2	滅菌トレイに未開封のプロープを袋ごと入れた。	滅菌トレイに置くことができるのは滅菌済みのものに限る。
3	滅菌トレイにツイーザーを容器ごと入れた。	
4	滅菌の意味を理解していない。	※「美容電気脱毛における滅菌・消毒について」参照
5	必要でない部分まで消毒し、時間がかかる。	限られた時間内に、脱毛中に触れるであろう部分だけを手際よく消毒すること。
6	エタノール消毒でモデルが真っ赤になっていた。	事前にお客様の状態(体質)を把握しておくことは、脱毛するための必須条件。 エタノール以外の消毒剤で行なうべき。
7	手指消毒後に未消毒の場所に触れた。 (例：未消毒のイス、ワゴンなど)	手指消毒の後にこのような状態になった場合は、ペーパータオルかティッシュペーパーを持って行く。
8	機械の確認をしていない。	機械の確認をフットペダルを踏み込んだ時に行なうのが鉄則。 通電の有無、機械の変化に素早く対処することが出来る。
9	挿入が不安定。	しっかり固定しないと肌への負担と未処理につながる。 プロープを挿入して電流を流している時、プロープを安定させて皮膚が平らなままであることを確認する。
10	方向・角度が違う。	毛の方向は1本の毛だけを見るのではなく、施術部位全体の毛流を見て判断する。 毛孔から出ている毛の角度にプロープの角度を合わせる。
11	挿入が浅い。	皮膚表面への熱の影響が大きく、水疱などの皮膚トラブルの原因になる。 また、熱原型が脱毛処理のターゲットからずれている。
12	・挿入が強引すぎる。	強引な挿入で皮膚が傷つき、プロープを押し付けることにより皮膚トラブル(水疱など)になり危険。 くぼみができるような固定をすると、皮膚に圧力がかかる。 プロープを完全に挿入し表皮が平らになるようにプロープを軽く戻すと、通電した時にプロープの深度が深くなるのを防ぐ。
	・皮膚にへこみが見られる。	
	・挿入時にプロープを押しつけている。	
13	挿入後、毛をつまむのが早い。	早くつまむのは、脱毛処理が完了しないうちに毛を引っ張ることになり、十分な脱毛効果が得られない。
14	挿入のやり直しが多く見られた。	一つの毛孔に対して、何度も挿入するのは毛の方向の見極めが出来ていない。 また、そうすることによって皮膚をへこませる。
15	深度測定を理解していない。	何のために、深度測定を行なうかを理解しなければ、正しい脱毛が出来ない。(未処理になる) ※深度測定とは、成長期後期の一番深い毛包を持つ毛を選んで脱毛し、適正な挿入深度を測ること ※別紙「挿入深度測定方法について」参照
16	脱毛のリズムが悪い。	脱毛サービスを提供する者として、無駄の無い脱毛を行なう。素早く毛を見極め処理する。 毛包から次の毛包へ、連続して挿入するのが理想的。処理をしている間に次の毛を探す。
17	オーバートリートメント。	皮膚を損傷することなく脱毛することが基本。 オーバートリートメントになる場合は即時、脱毛を中止する。危険な脱毛は行なわない。
18	ユニット計算が出来ていない。	アルカリユニットの判定とユニット計算が出来なければ、正しい脱毛は出来ない。(未処理になる) 脱毛に必要なアルカリユニットの判定と高周波の時間によって、直流電流値を決定する。 ※「美容電気脱毛実技理論」テキスト又は、「美容電気脱毛認定試験 テキスト・問題集」(ブレンド法のページ)参照
19	プロープがツイーザーに当たっていた。	ツイーザーとプロープが接触すると高周波電流が影響を受けて、十分な脱毛効果が得られない。
20	施術中の姿勢(ポジショニング)が悪い。	施術の姿勢(ポジショニング)が悪いとプロープを持つ手にも負荷がかかり、スムーズな脱毛が出来ない。
21	緊張のしすぎ。 (手の震えが最後まで止まらない。)	試験官としてもあまり緊張させないように気をつけているが、仮に緊張状態であっても通常の脱毛が行なえるよう、日頃から十分練習をしてほしい。
22	最後にプロープを外し忘れていた。 廃棄容器以外のものに捨てた。	プロープは脱毛終了後に直ちに外し、廃棄容器に捨てること。
23	モデルの毛が細い毛や休止期の毛しかない。	技術の確認や脱毛後の肌のチェックがしづらい。受験においては、チェックを受けやすいモデル選びをすること。